

わたしたちと向田邦子



いま、  
風が  
吹いている

## 向田邦子 没後40年特別イベント 「いま、風が吹いている」

会期：2021年1月14日（木）- 24日（日） 11:00 - 20:00 \*会期中無休

会場：SPIRAL（スパイラル）東京都港区南青山 5-6-23

展覧会：入場無料、スパイラルホール上映・公演：有料

主催：没後40年向田邦子カケル会

総合プロデューサー：合津直枝（テレビマンユニオン）

展覧会プロデューサー：小林裕幸（スパイラル）

会場構成・アートディレクション：KIGI

監修：向田和子

企画制作：ままや／テレビマンユニオン

企画協力：スパイラル

会場協力：株式会社ワコールアートセンター

協力：講談社／新潮社／文藝春秋／東京ニュース通信社

特別協力：かごしま近代文学館



特設Instagram

@mukodakuniko\_kakeru

旺盛な好奇心で風のように軽やかに生きた、向田邦子の 51 年の軌跡。

その軌跡が、展示・映像・演劇・舞台……さまざまな分野で活躍する才能と  
出会うことで新たなクリエイションが生まれます。

1929 年東京生まれの向田邦子。女性の社会進出はまだこれからという時代に、編集者として活動を始め、やがて多数のラジオ番組を構成、作家となり約 1,000 本のテレビドラマの脚本を手がけ、ヒットドラマの旗手となりました。さらにエッセイを書き、数作の短編小説で直木賞を受賞。残された多くの言葉や物語は、時を経ても色褪せることなく人々の心に響き続けています。そして、寸暇を惜しんでおしゃべりを楽しみ、美味しいものに目がなく、旅が好き、そんな“自分らしく気持ちよく暮らしたい”という向田邦子の生活スタイルもまた、世代を超えて共感され、憧れの対象であり続けています。

台湾の飛行機事故での突然の死から 40 年となる 2021 年、末妹・向田和子監修のもと、合津直枝（テレビマンユニオン）を総合プロデューサーに迎え、特別イベントを開催します。会場は東京・青山にある複合文化施設、SPIRAL（スパイラル）。向田邦子が最後の 10 年を過ごし愛した街、青山を開催地に選ばれました。展示の会場構成、アートディレクションを KIGI の植原亮輔と渡邊良重が行います。

そして、新たに製作するドキュメンタリーの上映や、舞台やコンサートなど盛りだくさんの内容です。軽やかでしなやかな風のように生きた向田邦子の 51 年の軌跡が、デザイン、グラフィック、文芸、演劇、音楽など、現在さまざまな分野で活躍する才能と出会うことで生まれる新たなクリエイション。この生きる活力をさまざまな世代の人々の心に届けます。

---

51 歳の生涯、その後衣食住の取材をあらゆる方々から受け、新聞雑誌等に紹介され続け、テレビドラマ、随筆、小説等は演劇、朗読、教科書等に採用され、今も皆様のお力添えのもと生き続けています。ありがとうございます。没後 40 年イベント、開催。大好きな青山の住まいから 300 歩。スパイラルでお待ちしております。

向田 和子（監修）

むこうだ・かずこ／邦子の 9 歳下の末妹。1978 年、姉・邦子とともに東京赤坂に惣菜・酒の店「ままや」を開店（1998 年に閉店）。著書に『かけがえのない賭け物 ままやと姉・邦子』『向田邦子の青春』（ともに文藝春秋）、『向田邦子の恋文』（新潮社）等。

---

“巨星”墜って 40 年。これまでの文学館での開催とは一線を画した【未来に拓ける催し】とした。向田邦子を回顧するのではなく、向田邦子と「今」がコラボする。常に初心に戻り新たなことに挑戦した向田邦子を見習って、【向田邦子×〈掛ける〉今】。掛け合わせる「今」は、アートであり、演劇であり、音楽であり、料理であり……即ち若い力である。新しい「向田伝説」はじまりの予感。どんな風が吹くのか、いや、どんな風を巻き起こせるか……共に楽しみたい。

合津 直枝（総合プロデュース）

ごうづ・なおえ／テレビマンユニオン所属。初プロデュース映画『幻の光』（是枝裕和監督）は、ヴェネチア国際映画祭・金のオゼッラ賞受賞。『落下する夕方』で映画監督デビュー。『書店員ミチルの身の上話』をはじめとし、TV ドラマ、映画、ドキュメンタリー作品を多数手がけ、近年は舞台の脚色・演出作品も多い。

---

2021 年、向田邦子さんが再び青山に戻ってくるわけなので、少しでもお祭り気分を演出させてもらいます。風が吹き抜けるようなスパイラルの空間の特徴を活かして、向田邦子さんの生み出した作品、カルチャー、ライフを、この空間の空気の流れに乗せる。そして、邦子さんの作品を通して、観客の方々のイマジネーションが限りなく広がっていくことを想像して展示の構成を考えました。

KIGI 〈会場構成／アートディレクション〉

キギ／植原亮輔と渡邊良重によるクリエイティブユニット。企業やブランドなどのアートディレクションを手掛けるほか、プロダクトブランド KIKOF を発足、ギャラリーショップ OUR FAVOURITESHOP を運営。また、空間やムービーのディレクション、作品制作して発表する等、ジャンルに拘らない自由なクリエイティブ活動をしている。2017 年、宇都宮美術館にて大規模個展『KIGI WORK & FREE』を開催。



## 展覧会 「いま、風が吹いている」 会場：スパイラルガーデン（1F）

スパイラルガーデンの空間全体に「風が吹き抜けていく」流れをイメージし、向田邦子の愛用品、生原稿、写真など約300点の資料を展示。仕事もプライベートも好奇心いっぱい駆け抜けた彼女の人生を辿ります。「向田邦子賞」を受賞した38名のパネル展示も。また、大きな吹き抜けの空間には「風の塔」を設置（音声：小泉今日子）。向田作品から選りすぐったときめきの言葉が、風に乗ってふわりと観客のもとへ舞い降ります。

会場構成・アートディレクション：KIGI（キギ）

2021年1月14日（木）- 24日（日） 11:00 - 20:00 入場無料



## ドキュメンタリー 『向田邦子の贈り物』 会場：スパイラルホール（3F）

ドラマ、小説、エッセイ、食、装い……向田邦子に魅せられた各界30余名が、「わたしと向田邦子」をおおいに語り、歌い、踊り、つくる……未来につなぐ「今」の記録です。

出演：あずみ虫（イラストレーター）、井上由美子（脚本家）、大草直子（スタイリスト）、太田光（漫才師）、岡室美奈子（早稲田大学演劇博物館館長）、角田光代（小説家）、川原伸司／平井夏美（作曲家）、岸本加世子（女優）、黒木瞳（女優）、小松美羽（現代アーティスト）、酒井順子（エッセイスト）、作原文子（インテリアスタイリスト）、鈴木理策（写真家）、TAKAHIRO（ダンサー）、田中達也（ミニチュア写真家）、タナダユキ（映画監督）、DOTAMA（ラッパー）、登美丘高校ダンス部、中井美穂（アナウンサー）、永井尋己（CGクリエイター）、中野量太（映画監督）、西加奈子（小説家）、西炯子（漫画家）、西谷牧人（チェロ奏者）、華恵（エッセイスト）、藤田貴大（演劇作家）、冷水希三子（料理家）、平松洋子（エッセイスト）、森下佳子（脚本家）、山崎ハコ（歌手）ほか予定。／旅人：石橋静河（女優）

取材・構成：朝永直輝

2021年1月20日（水）15:30 / 18:30 1月21日（木）12:30 / 15:30 / 18:30（上映時間：約80分）  
料金：1100円 全席自由（整理番号付き） \*チケットぴあ Pコード 646-038（2020.12.21より販売開始）



## 舞台 『寺内貫太郎 33 回忌』 会場：スパイラルホール（3F）

向田邦子脚本の大ヒットドラマ「寺内貫太郎一家」。頑固で短気、でもどこか憎めない人情家、昔ながらの石材店主人・寺内貫太郎が亡くなって33年。あっちの世界から、こっちの世界から縁者が集まってワイワイガヤガヤ。あの「寺内貫太郎一家」が蘇ります。

出演：浅田美代子、溝端淳平、荒川良々、眞島秀和、青木さやか、小林亜星（声）ほか  
脚本・演出・プロデュース：合津直枝

2021年1月23日（土）14:00 / 17:30（上演時間：約80分）  
料金：3,900円 全席自由（整理番号付き） \*チケットぴあ Pコード 646-038（2020.12.21より販売開始）



## 音楽 『向田邦子・風のコンサート』 会場：スパイラルホール（3F）

「阿修羅のごとく」「あ・うん」のテーマ曲をはじめ、向田作品おなじみの楽曲を10数曲、超一流アーティストが奏でる1回限りの特別なコンサート。ラストはあの「瑠璃色の地球」に合唱を添えてー。

出演：石田泰尚（ヴァイオリン）、西谷牧人（チェロ）、山中惇史（ピアノ）、波多野睦美（メゾソプラノ）、杉並児童合唱団／MC：華恵 選曲・構成・プロデュース：合津直枝

2021年1月24日（日）15:00（上演時間：約80分）  
料金：3,900円 全席自由（整理番号付き） \*チケットぴあ Pコード 646-038（2020.12.21より販売開始）



※ドキュメンタリー、舞台、コンサートは、2021.1.30～2.28よりテレビマンユニオンチャンネルで期間限定オンライン有料配信予定（2020.12.21登録開始）

## 食『ままやセット』 会場：スパイラルカフェ（1F）

末妹・向田和子をはじめた赤坂の小料理屋「ままや」の看板メニューだった「ひとロカレー」「人参のピリ煮」「さつまいものレモン煮」を料理家の冷水希三子が再解釈して蘇らせ、特別メニューとして提供いたします。

1日限定 30食（ドリンク付き）

ひやみず・きみこ／レストランやカフェ勤務を経て、フードコーディネーターとして独立。

著書に『おいしい七変化 小麦粉』（京阪神エルマガジン社）、『ONE PLATE OF SEASONS - 四季の皿』

（アノニマスタジオ）、『ちょっと贅沢なおもてなしレシピ』（家の光協会）など。



## トーク「向田邦子と私（仮）」 会場：スパイラルガーデン（1F）

向田邦子本人や作品にゆかりのかる方々をお迎えし、向田作品の色褪せない魅力や、多くの人に愛された人柄について語り合うトークイベントを開催します。

入場無料、事前予約制

※日時、出演者、予約方法等につきましては決定次第、スパイラルウェブイベントページ（[spiral.co.jp](http://spiral.co.jp)）にて発表いたします。

※オンライン配信の予定はございません。

## 本『向田書店』 会場：MINA-TO（1F）

向田邦子の著作をはじめ、著作の出版元である各出版社がおすすめる書籍約30タイトルを販売。本展オリジナルの選書をお楽しみください。

## SPINNER 会場：スパイラルガーデン（1F）

モデル、スパイラルのWEBマガジン SPINNERの編集長として活躍する前田エマをホストに現代を軽やかに生き抜く女性クリエイターをお迎えし、女性と仕事、暮らし、おしゃれ、文化、生活、旅……。向田邦子が関心を寄せた様々な事象について語り合います。

入場無料、事前予約制

※日時、出演者、予約方法等につきましては決定次第、スパイラルウェブイベントページ（[spiral.co.jp](http://spiral.co.jp)）にて発表いたします。

※オンライン配信の予定はございません。



写真提供：かごしま近代文学館

### 向田 邦子（むこうだくにこ） 1929 - 1981

昭和4（1929）年東京生まれ。保険会社に勤める父親の転勤に伴って幼少時から高等女学校時代まで日本全国を転々としながら育つ。ふるさどを持たない身でありながら、小学3年生から2年余りを過ごした鹿児島を、のちに“故郷もどき”として親しむ。実践女子専門学校（現・実践女子大学）国語科を卒業後、映画雑誌の編集者を経て、ラジオの構成作家、テレビ脚本家として活躍。代表作には「寺内貫太郎一家」「阿修羅のごとく」などがあり、1970-80年代のヒットメーカーとなる。46歳での乳がん発症をきっかけにエッセイを手掛けるようになって「父の詫び状」を出版、1980年「小説新潮」に連載中の『思い出トランプ』の「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」で第83回直木賞を受賞し、“時の人”となる。翌1981年8月飛行機事故で急逝。享年51。残した作品と同様に、旺盛な好奇心を寄せたセンスのいい生活スタイルが多くの人々を魅了し続けている。

### 【PRESS CONTACT】

本件に関するご質問、取材や掲載等のご希望は下記プレス担当までお問い合わせください。

竹形 尚子（デイリープレス）tel. 03-6416-3201 / 090-1531-6268 [naotakegata@dailypress.org](mailto:naotakegata@dailypress.org)